

ひかりのこ

10月園便り

聖ミカエル幼稚園
2019年9月19日

月主題：楽しむ

『子どもから学ぶ』

私たち教職員は、毎月1回行われる職員会議で、行事や、お子さんのことを話し合い、確認し合っています。それに加え、2学期からは、『新キリスト教保育指針』の読み合わせを行っています。

聖ミカエル幼稚園はキリスト教保育中心の幼稚園であるので、この本を読まなくても当たり前、毎日キリスト教保育は行われているはず。それでもみんな同じ書物を通して、言葉で確認し合うことには、とても意味があると考えています。

今月読んだ箇所には、聖書の「マルコによる福音書9章35節～」が引用されていました。

『イエスが座り、12人を呼び寄せて言われた。「一番先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕えるものになりなさい。」そして、一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。「私の名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。私を受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。』

「誰が一番偉いか」と議論する弟子たちにイエス様は、大人も子供の様に物を見、感じ、考えることから、大人のもつ考えや営みに問いかけがされる、と伝えたのです。

幼稚園で働く私たち教職員も、子どもを持つ親御さんにもこの姿勢はとても大切だと考えます。子どもたちは毎日精一杯生きています。お友達が大好きで、共に遊び、喧嘩し、すぐ仲直りし、互いを許し合っていて生きています。いつもキラキラした目で物事を見つめ、新しいことにチャレンジして、どんどん成長しています。

私たち大人は、そんな子どもの目線に自分も立って、周りの人たちや社会を見つめなさい、とイエス様はおっしゃっているのです。

ともすると、子どもは何もできない、大人の言いなりとなる弱い者、と考えてしまいがちですが、そうではなく、子どもたちの姿にこそ私たち大人は学ばなければならないと感じます。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「SNSの功罪」

以前、私のfacebookに、「下澤先輩ですよ〜？」という連絡が突然舞い込みました。「高校のワンダーフォーゲル部の後輩のOです」と続きます。「お〜、久しぶりじゃね〜か」と返事を返して、30数年ぶりのやり取りが始まりました。ところが、その後すぐ、私が牧師であることを知って彼は自分が癌の末期であり、残された時間は数ヶ月であることを告白しました。奥さんと子どもが2人いて、働き盛りの年代です。彼がどんな思いで過ごしているのか想像すると、とても胸が痛みました。

当時、私は帯広にいたのですが、室蘭まで車を飛ばし、入院中の痩せ細った本人に再会しました。小さな十字架を彼に渡し、彼のため、家族のために祈りました。病室を去る時の、彼の笑顔を忘れることができません。それが最初で最後の再会となりました。これも、私がfacebookをやっていたからこそその大切な出来事です。

しかし、このところ私はfacebookから遠ざかっています。貴重な発見や出会いがある反面、あまり目にしたくないニュースや、過激で不確かな内容の発言に触れてうんざりすることがあるからです。

総じて、facebookやLINEなどのSNSのやり取りでは、読み手がどう思うかという想像力をあまり必要としません。感じたことをすぐ言葉にして伝えがちです。相手が見えないゆえの気楽さがあります。それにひきかえ、顔と顔を合わせ、相手の目を見て話すことは、緊張もするし、面倒だし、言いたいことも言えない雰囲気が生じるかもしれません。しかし、それが本来の人間の対話なのだと思います。知恵と配慮が求められるのです。敢えて不便な方法を選ぶ、時間のかかる手段を選ぶことで、反対に大切なことに気づくこともあります。時と場合に応じて、使い分けていきたいと思うこの頃です。

チャプレン 司祭 下澤 昌